情報デザイン科**学科だより**
**Information Design Department**

# IDDNewsletter 10

October
2021

特集

## 「ものづくり」から学ぶ

「ものづくり」という言葉のイメージは、伝統工芸品を作る「熟練工」「「職人」「匠の技を持つ人」といった手仕事のような何かを連想する方が多いのではないでしょうか。「ものづくり」を調べると言葉どおり「もの（物）をつくること」とあります。人は、古代から今日まで「もの」を作り続けています。それは生きるための「もの」から装飾品、そして、現在では、自動車やスマートフォン、PC ゲーム等にまで拡がり「ものづくり」の種類は多種多様であります。

今回の「学科だより」は、その「ものづくり」から学生達は何を学ぶべきなのか等の考察を含め、学習の様子と共に紹介したいと思います。

特集

# 「ものづくり」から学ぶ

**「ものづくり」という言葉のイメージは、伝統工芸品を作る「熟練工」「「職人」「匠の技を持つ人」といった手仕事のような何かを連想する方が多いのではないでしょうか。「ものづくり」を調べると言葉どおり「もの（物）をつくること」とあります。人は、古代から今日まで「もの」を作り続けています。それは生きるための「もの」から装飾品、そして、現在では、自動車やスマートフォン、PC ゲーム等にまで拡がり「ものづくり」の種類は多種多様であります。**

**今回の「学科だより」は、その「ものづくり」から学生達は何を学ぶべきなのか等の考察を含め、学習の様子と共に紹介したいと思います。**

情報デザイン科の科目「インテリア・エレメント」の学習では、多様な素材を使って企画設計及び製作一連の工程の実習を通して、製作技術に関する基礎的な能力と態度を育てることを目標に授業を行なっています。

インテリアは「室内」、エレメントは「要素」「成分」の意味があります。従って、インテリアを構成する要素（家具・カーテン・カーペット・照明器具・絵画など。天井・壁・床などの内装材も含まれる）に係る製作実作と解することができます。

現在、「インテリア・エレメント」では、木製スライド式ブックスタンド製作（製作中）の実習をしています。

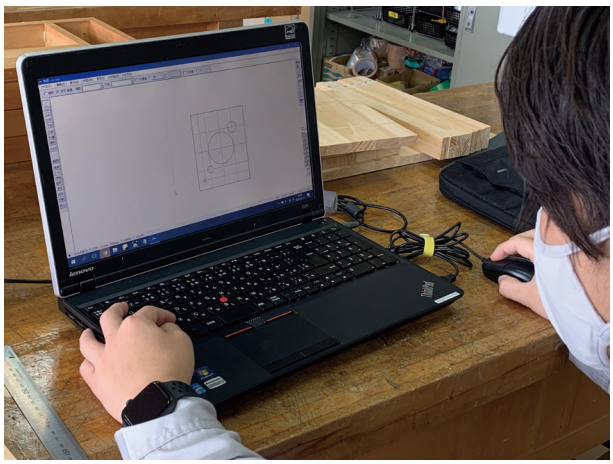
木製スライド式ブックスタンドの製作は、一つ目の題材で４月の下旬から製作を始めました。実習は、大型機械を使い加工します。横切り丸鋸盤、手押しカンナ盤、自動カンナ盤、バンドソーなど便利な機械ではありますが、操作を誤ると事故に繋がる、危険を伴う作業です。また、ボール盤や糸のこ盤などの小型機械及びノミ、手カンナ、あらゆる手道具も正しく使いこなさなければなりません。経験と正確性を要求される作業が続いています。

この実習では３人の学生が授業を受けています。

学生の中には、木工の機械のみならず、全ての道具を使用するのが初めてという方もいます。よって、大型機械の操作方法や注意事項はしっかりと説明を聞いていただいてから、慎重に操作することを徹底しました。特に、聴覚に障がいのある学生さんの実習ですから機械の異変や行動制止等、操作方法に多くの時間をかけて説明をしました。今迄、事故やケガは一件もありません。

実習内容で苦労していたのは、材料の固定の仕方と組み立て時の現物合わせでした。材料の固定は、クランプ（固定用具）を使いますが、固定の際材加工に邪魔にならない場所で固定できているかなど、また、組み立てでは、木材の乾燥により反り返りや切り過ぎ削り過ぎなどで材を修正するなどして、設計図通りに行かなくなり、設計変更を余儀なくされたことがありました。

３名の学生の作品は、まだ完成してはいないのですが、ここまでの実習での「気づき」等を含めた感想を紹介します。作品を固定するには、どうすれば良いのか考えることが大変でした。一つ一つの作業をするには、気をつけるべきは何か、



作業しやすい姿勢などを意識する力が大切だと気づきました。穴を開ける位置を間違えたり、長さの測り方がきちんとしていなかったり、いろいろ確認不足な面があったので丁寧に、かつ正確に作業するように身に付けていきたいと思います。道具の使い方に微妙な面がある場合は先生に使い方を改めて教えてくれたり、見本を見せてくれたりなどで完全に理解出来るよう努めていくことが私自身の課題だと思います。

ケガをすることなく、安全に作業するように取り組んでいくことが一番重要なんじゃないかと私は思います。

（以下、学生の記述したテキスト）

初めて木工に深く関わる授業になったので、分からないことが沢山あって一つ一つ覚えて安全確認の上作業をすることが大変であった。少しのずれやミスで後に大変な作業が増えるので注意しながらやらなければならないのが大事だと分かった。ひとつのものを作るのに長い時間をかけるのでやる気の低下や注意力が欠けていったかなと思う。ヤスリがけばっかで無心でやらないとやっていけない。この授業は興味もやりたいとも思わなかったので楽しいかと聞かれると「いいえ」である。この授業を通じてアナログ的なことは向いてないとより分かった。

苦労したことは、固定方法です。理由は、木ダボを埋めるときにどうしてもグラグラするのでしないようにハタガネを使って固定する方法を考えるのが少し大変でした。機械を使うのが楽しかった。また、糸鋸を使ってデザインした形に加工することが楽しかったです。

今の自分の課題は、作業するときの姿勢（今まで自分がやってきた形と違うので戸惑いがあった）や道具の持ち方です。機械を使わなければ出来ない作業が多かった。

（学生の記述したテキストここまで）

３名の学生さんが、各自の目的意識の中で課題や問題点を振り返っておられるようです。その中でも「気づきや難しさ（苦労）、楽しさ　喜び（達成感）」などいろいろなことを学んでいると思います。

完成はもうすぐです。最後まで安全に焦らず慎重に頑張ってほしいです。

私（筆者）も「ものづくり」から多くのことを学びました。

障がいが有る無しにかかわらず安全な作業実習の確保は絶対であります。私は今年度から本校で勤務しておりますが、教師として、聴覚に障がいのある方との作業に対しての配慮の足りなさを感じています。特に大型機械の操作の制止時に声・接触だけではなくカード（「ＯＮ・OFF・STOP」）を使うなど、提示方法の約束ごとを入念に打ち合わせすべきであったと猛省しています。私にとっては、大きな学びの経験でした。

最後に、「ものづくり」とは、単に「もの」の形だけを作って終わりではない、その「もの」が完成するまでの過程を想像することが大事と考えます。なぜならば、学生の皆さんも経験したと思いますが、「ものづくり」は多くの時間がかかり、試行錯誤の末にできあがります。製品を見たとき、自分達が苦労して作り上げたスライド式ブックスタンドを思い出してほしいと思います。「もの」の後ろには作り手の熱意と苦労があります。失敗を恐れずに「もの」をつくる楽しさ、「ものづくり」の醍醐味、完成までの責任感と喜びを感じてほしいです。これから先、ものをつくった人たちはその心を使う人に伝え、それを使う人は、ものを通してつくった人達の心を知り、お互いに思いやりと愛情を感じ、与えてほしいと思います。

IDDN

# Contents

特集
2-3 「ものづくり」から学ぶ

「ものづくり」という言葉のイメージは、伝統工芸品を作る「熟練工」「職人」「匠の技を持つ人」といった手仕事のような何かを連想する方が多いのではないでしょうか。「ものづくり」を調べると言葉どおり「もの（物）をつくること」とあります。人は、古代から今日まで「もの」を作り続けています。それは生きるための「もの」から装飾品、そして、現在では、自動車やスマートフォン、PC ゲーム等にまで拡がり「ものづくり」の種類は多種多様であります。
今回の「学科だより」は、その「ものづくり」から学生達は何を学ぶべきなのか等の考察を含め、学習の様子と友に紹介したいと思います。

*Welcome to Information Design Department!!*

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、第５波を迎えております。昨年度同様に、様々な学校のイベントが中止もしくは延期されるなど、スケジュールの変更を余儀なくされています。幸いにも本校では、感染者の報告はありませんが、まずは、この状態を継続していきたいです。制限がある中ではありますが、充実した学びのため環境整備に今後とも努めて参ります。

**○令和４年度新入生の施設見学・教育相談を受け付けております**

今年度もいよいよ後半戦です。現在、令和４年度新入生について、施設見学と教育相談を受け付けております。また、令和５年度以降の新入生についても、随時受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

**お問い合わせ：**北海道高等聾学校専攻科 入学選考事務局（担当：中、桑原）
ファックス：0134-62-2663　電話：0134-62-2624　電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

情報デザイン科**学科だより**
**Information Design Department**
# IDD**Newsletter**
October 2021 10

IDD**Newsletter**　**October 2021**

**発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム**
**発行／北海道高等聾学校**
**〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1**
www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

**※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。**